

病態可視化マウスを本格展開

マウスを使った抗体作製受託サービスを手がけるトランスジェニックスは、新たな研究支援ツールとして、「病態可視化マウス」のサービス提供に力を入れる。

細胞ストレスは、様々な疾患に関与していることが報告されている。特に細胞内ストレスでは、神経変性疾患や癌、メタボリックシンドロームな

ストレスなどがある。同社は、公的研究機関から細胞ストレス可視化マウス「報告BR-111Cマウス」(小胞体ストレス可視化トランスジェ

独占的使用権を獲得した。ホタルの発光酵素でもあるホタルシフェラーゼを使用したレポーターシステムをもとに、病態可視化マウスとしてつく

線を照射することで細胞ストレスを可視化し、同一体で何度でも経時的に酸化ストレスの評価を行えるため、長期にわたって病態が進行する疾患にも利用

る。病態マウスに紫外線照射を行うことで、疾患発症につながる細

胞ストレスを可視化し検出できるのが特徴。病態解析を行えるツールとして、薬効・薬理試験や安全性薬理試験など非臨床試験の受託につなげたい構えだ。

トランスジェニックス

細胞ストレスを簡便に検出

き合いも多く来ているという。

どの発症に関わり、不具合で生じた変性蛋白質が蓄積されることで引き起こされる小胞体ストレス、動脈硬化や糖尿病、リウマチなどに関わり、酸化反応が亢進する酸化

ニックマウス)、R型BR-111Cマウス(小胞体ストレス可視化ニックアウトマウス)、R型OKD&G-JUCマウス(酸化ストレス可視化トランスジェニックスマウス)の

られている。これまでは、大量の病態モデルマウスに薬剤を投与し、生存数を確認する侵襲的な薬効評価が行われていた。今回の病態モデルマウスでは、紫外

同社では、ジェノミクス事業、CRO事業、抗体試験薬の三つの柱で事業を展開。4月に新薬開発研究所を買収し、抗体作製から非臨床試験受託までの体制を強化した。